

かみいち総合病院改革プラン評価表(経営効率化指標)

1. 財務に係る数値目標

主な数値目標	平成27年度	平成28年度				平成29年度		状況報告	評価委員の 評価・指摘事項
	実績	計画値	実績値	自己評価	評価委員	計画値	実績値		
経常収支比率(%)	97.1	96.7	92.8	B	B	98.0		<p>【収支改善に係るもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経常収支比率、医業収支比率は平成27年度に比較して約5%低下。</li> <li>病床利用率は1年を通すと回復期、精神で目標を大きく下回った。平成28年10月に199床へ減床し、一般病床、回復期リハビリテーション病床の適正な運営を試みた。</li> <li>しかし、患者数の回復が目標に達していない。地域のニーズに応じて地域包括ケア病床を取り入れて患者数の回復を図る。</li> <li>精神病床の稼働率向上には引き続きの対応が必要である。</li> <li>患者1人1日当たり診療収入は計画値より、入院で1,460円増加、外来で59円下回った、入院と外来患者数が伸び悩み、医業収入への影響は大きかった。</li> </ul>	
医業収支比率(%)	87.2	88.6	82.2	B	B	90.3			
不良債務比率(%)	0	0	0	A	A	0			
医業収益対診療材料費(%)	5.8	6.1	6.1	A	A	5.9	<p>【経費削減に係るもの】</p> <p>(中期経営計画 経常収支の均衡に努める病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委託費については、医業収益の減少により、見かけ上悪化した。</li> <li>給与費の悪化は、病院機能維持のため職員を増強したが、思うように患者数が伸びず医業収益を達成できなかった。</li> <li>薬剤費は院外処方の推進により年々減少しており、計画数値を達成している。</li> <li>後発薬品への切り替えは目標値を達成しているため今後、維持が重要である。</li> <li>材料費についてはSPDの導入と専門業者による価格比較効果があるものの、経年的に効果は減少しており、効果の見直しを図るために、プロポーザル入札等を行なう。</li> </ul>		
医業収益対薬剤費(%)	11.0	11.6	11.4	A	A	11.3			
医業収益対委託費(%)	11.0	11.9	13.6	B	B	11.8			
医業収益対職員給与比率(%)	63.6	65.1	69.9	B	B	63.9			
後発薬品使用割合(%)	74.7	80.0	82.0	A	A	80.0			
1日平均患者数(入院)(人)	141.8	143.8	128.9	B	B	149.2			
1日平均患者数(外来)(人)	480.3	483.5	476.3	B	B	485.5	<p>【収入確保に係るもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度に入院患者数、外来患者数共に減少、以後の回復がはかかっていない。</li> <li>特に、入院の落ち込みが大きいことから、今後地域医療構想において、病床機能の転換を求められ、病院機能の低下が危惧される。</li> <li>回復期病床の稼働率が向上できないため、地域包括ケア病床等の取り入れを図り、改善を見込む。</li> <li>精神科病床の病床利用率は約50%と低迷している。今後、精神科の充実の予定がある。また、認知症患者の増加もあり、改善が見込まれる。</li> <li>紹介率は25年度の29.8%をピークに低下、28年度には21.4%と低下傾向。地域連携並びに退院支援を充実に行っているものの、富山市内の各種病床機能の充実が影響し、紹介患者に対する吸引力が低下している。今後は、生活支援のリハビリテーションなど当院の特色をさらに理解いただくような活動が求められる。</li> </ul>		
患者1人1日当たり診療収入(入院)(円)	34,396	34,508	34,999	A	A	34,390			
患者1人1日当たり診療収入(外来)(円)	10,113	10,276	9,924	B	B	10,384			
病床利用率(一般)(%)	71.00	73.0	69.7	B	B	81.3			
病床利用率(回復期)(%)	71.4	80.0	59.1	C	C	80.0			
病床利用率(精神)(%)	45.5	53.0	49.8	B	B	64.7			
常勤医師数	23.0	25.0	27	A	A	25.0		<p>【経営の安定に係るもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常勤医師は、目標を達成しているが、高齢化対策が今後の課題となる。</li> <li>入院患者対応が可能な医師の確保が必須である。</li> <li>医業未収金は、計画を達成しているが今後も縮小できるように継続する。</li> </ul>	
医業未収金残高(千円)3月末時点	30,317	34,000	27,514	A	A	30,000			
現金保有残高(千円)	522,984	400,000	473,842	A	A	400,000			

2. 医療機能に係る数値目標

主な数値目標	平成27年度	平成28年度				平成29年度		状況報告	評価委員の 評価・指摘事項
	実績	計画値	実績値	自己評価	評価委員	計画値	実績値		
救急車受入件数	518	550	506	B	B	550		(中期経営計画 医療の質の向上に努める病院) ・救急車の受け入れ件数は、減少しており、回復するための方策を検討中である。 ・手術件数は、整形外科が27年度に比べて40件の減少が大きく影響している。	
手術件数(人)	802	800	760	B	B	800			
紹介率(%)	24.1	26.0	21.4	B	B	27.0		・紹介率は、年々減少傾向にあり、それに伴い逆紹介率も減少している。 ・紹介率高めることは、入院患者数の増加につながるため、地域連携室を中心として紹介患者の確保を図る。 また、平成28年度においては院長が、主な公立病院へ依頼に回っている。	
逆紹介率(%)	14.8	17.0	12.6	C	C	18.0			
在宅訪問診療件数	881	700	918	A	A	710		(中期経営計画 安心して老後をささえる病院) ・在宅関連の数値は軒並み著しく伸びており、在宅医療の需要は今後も増え続けると言える。但し在宅医療を支える医師は不足しており、今後はどのように在宅医療に対応する医師を確保するかが第一義となる。 ・今後は、広域の在宅医療センター並びに家庭医療センターの併施等を通じて、在宅医療への対応を図っていく。そのためには、訪問にかかわる看護師等の人材確保が重要となる。 ・在宅復帰率が低下しているが、今後は、在宅医療センターと連携して向上を図る。	
在宅復帰率(%)	91.5	80	75.3	B	B	80			
分娩件数	100	120	97	B	B	120		(中期経営計画 命産んで育む病院) ・産科の分娩件数は昨年と比較して約3件の減少であった。出産可能人口減少の中で分娩件数を増やすための施策(町と連携して不妊治療)が必要である。 ・産婦人科医師を嘱託を含めて2名体制にしている。産んで育む上市を守るためにも29年度以降には分娩数増加を図りたい。	
母乳外来件数	105	150	94	C	B	150			
外来患者満足度%	67.4	85.0	78.8	B	B	85.0		【その他】 年1回の満足度調査で評価の低い項目に対して見直しを行い、満足度を高める方策を図る。 相談件数の増に関しては、新たに相談コーナーを設けた。 認定看護師数は、計画を達成しているが、病院機能の充実に従いさらに増やす。 病院機能評価の更新年度で準備等に時間を費やしたことにより、ナイトスクールの実施件数が減った。	
入院患者満足度%	71.4	85.0	86.9	A	A	85.0			
患者窓口相談件数	1,497	1,400	2,630	A	A	1,400			
ナイトスクール実施件数	2	6	3	C	B	6			
認定看護師数(人)	7	10	11	A	A	11			

(注) 1. 達成状況欄は、A: 目標以上 B: 一定の実績(8割以上) C: 実績不足 により評価票1の数値を自己評価した

かみいち総合病院改革プラン 評価表 平成28年度分

取組項目	番号	内容	指標	目標値 H28	実績値 H28	自己評価	評価委員	目標値 H29	全体計画	実績及び成果等	評価委員指摘事項等
① 収入増加・確保対策	1	入院外来収益の増収	診療報酬	3,195,356千円	2,974,968千円	B	B	3,274,090千円	・平成27年度 医業収益計 3,148,250千円(実績) ・平成32年度 医業収益計 3,413,909千円(計画)	平成28年度の延べ人数について前年度対比で、外来が▲958人、入院で▲4,855人と大きく下回った。外来の科別で見ると小児科以外すべての診療科で下まわっており、特に耳鼻科、整形外科が大きかった。入院では内科、脳神経外科、整形外科、神経精神科が大きく下回ったことにより、減収につながった。	
	2	病棟薬剤師配置による増収 薬剤指導管理料算定回数増による増収	診療報酬	14,000千円	10,719千円	C	C	14,000千円	病棟薬剤師業務配置加算(係数割戻し) 収入額 平成25年度 3,000千円 平成26年度 6,000千円 平成27年度 5,000千円  薬剤管理指導料 収入額 平成25年度 9,000千円 平成26年度 8,000千円 平成27年度 9,000千円	病棟薬剤師業務配置加算 4,301千円 薬剤指導管理料 6,418千円 薬剤管理指導料等については、入院患者の減により大きく落ち込んだ結果となった。今後は、入院翌日までに指導を行うことで算定の向上を図る。  $552,231,430 \times 0.0063 = 3,479,000$ 円 出来高分822 $\times 1,000$ 円 = 822,000円 薬剤指導管理料① $1,210$ 件 $\times 3,800$ 円 = 4,598,000円 薬剤指導管理料② $560$ 件 $\times 3,250$ 円 = 1,820,000円	
	3	管理栄養士配置による増収	診療報酬	3,000千円	2,541千円	B	B	3,000千円	栄養食事指導料 収入額 平成25年度 2,000千円 平成26年度 2,300千円 平成27年度 3,000千円	管理栄養士3人体制で栄養管理を実施中だが、入院患者数減が影響して未達成となった。  外来初回 $2,600$ 円 $\times 325$ 件 = 845,000円 外来2回目 $2,000$ 円 $\times 195$ 件 = 390,000円 入院初回 $2,600$ 円 $\times 437$ 件 = 1,136,200円 入院2回目 $2,000$ 円 $\times 85$ 件 = 170,000円	
	4	リハビリテーションの充実(回復期リハビリテーション病棟充実による増収額) ・回復期リハビリテーション病棟入院料の増収額(※平成27年度以降の比較) ・リハビリテーション実施収入額(25年度、26年度)	リハビリ料収入額	227,280千円	151,869千円	C	C	227,280千円	脳血管リハ件数 27年 37,400単位(126,260千円) 32年 58,620単位(128,964千円)  運動器リハ件数 28年 50,000単位(90,000千円) 29年 50,000単位(90,000千円) 30年 53,000単位(95,400千円) 31年 53,000単位(95,400千円) 32年 53,000単位(95,400千円)  がんリハ件数 28年 600単位(1,200千円) 29年 600単位(1,200千円) 30年 700単位(1,400千円) 31年 700単位(1,400千円) 32年 700単位(1,400千円)	脳血管リハ 20,951単位 $\times 2,450$ 円 = 51,330千円 運動器リハ 36,124単位 $\times 1,850$ 円 = 66,829千円 がんリハ 416単位 $\times 2,050$ 円 = 853千円 廃用リハ 18,254単位 $\times 1,800$ 円 = 32,857千円 入院患者数減により、対象患者が減っていることが影響している。 また、リハスタッフ1人当たり実施単位数を18単位として設定していたが、平均15単位と予定よりも少なかった。18単位の実行には職員の熟練度も要するため、今後の課題と言え。充実加算は1日6単位以上の設定となるが、リハスタッフの不足から充実加算の取得は早くとも29年度以降の検討課題である。	
	5	健診・ドック利用者の拡大	収入増加策	80,000千円 (年間健診センター利用額)	93,699千円	A	A	80,000千円 (年間健診センター利用額)	(1年当たり) 通常健診センター 90,164千円 土曜日ドック 3,535千円	このままの推移を望む。	
	6	未収金残額の遞減—徴収専門員の配置等 ※指標は今後未収金年度末残高を基準とする	未収金徴収	2000千円	1881千円	B	B	2000千円	徴収専門員の配置 未収金回収業者の導入 1,800千円 200千円	徴収専門員の配置回収は前年を下回ったものの、おおむね順調に回収できたと思われる。 不良債権化した未収金については、法律事務所に回収委託したことにより、約149千円を収納することができた。 25年度 2,285千円 26年度 3,273千円 27年度 3,100千円	
総括: ①収入増加・確保対策 28年度 285,959千円減											

(注) 1. 達成状況欄は、A: 目標以上 B: 一定の実績(8割以上) C: 実績不足 により自己評価した

取組項目	番号	内容	指標	目標値 H28	実績値 H28	自己評価	評価委員	目標値 H29	全体計画	実績及び成果等	評価委員指摘事項等
② 経費削減・抑制対策	1	SPD・共同購入による経費削減	医療材料費	2,000千円	5,180千円	A	A	2,000千円	25年度 診療材料削減額 3,000千円(H24ベース) 26年度 " 1,500千円(H24ベース) 共同購入による配当収入 25年度 1,000千円 26年度 1,500千円	SPD購入額 H28実績 144,396,195円 SPD導入の傾向として、初年度の効果が最も大きく、年々価格が落ち着くことからその効果が小さくなる。共同購入品の採用拡大により配当収入は増加しているが、原材料の高騰や輸入品の影響による材料価格の引き上げ、リスク管理及び感染対策の名のもとに行われる1回限り使用物品の増加等により、材料費はむしろ増える傾向にある。 ただし、以前と比較して、死に在庫による費用口は減少しており、管理面では効果を上げていると考える。 共同購入による配当収入 4,058,856円 共同購入採用品の増加により、配当収入も増えた。 H27年度からの診療材料削減額は1,121,410円であった。	
	2	時間外勤務手当の抑制 (実績比毎年2%減 下記数値は手当合計額)	人件費	▲1,174千円	11,812千円	C	C	▲1,410千円	毎年2%ずつ時間外手当の削減 特に医師、看護師の負担軽減を鑑みた人員配置等により削減を目指す 毎年 実績対比 2%減	【28年度残業実績】 医師計 42,978千円(昨年 32,070千円) 看護師計 19,877千円(昨年19,223千円) 医療技術職計 4,903千円(昨年5,372千円) 事務職計 2,760千円(昨年 2,687千円) 合計 70,518千円(昨年58,706千円) 約11,812千円残業が増額 医療技術職以外は全て残業時間が増加している。 医師職に関しては、残業単価算出方法が変わったため、更に増加している。	
	3	院外処方発行率向上 90%以上	医療材料費	28年度対比削減額500千円	削減額 1,500千円	A	A	29年度対比削減額500千円	院外処方の発行率を向上することで、院内処方減らし、薬品費を削減する(薬品費削減額ベース)  H28以降 1,000千円(院外処方箋発行率 90%以上)	24年度 74.1% 25年度 75.9% 26年度 78.5% 27年度 80.2% 28年度 83.0% 平成28年度は 院外処方せん発行率 83.0%と昨年に比べて改善している。 最終目標の90%については実現可能性も含めて再検討を要する。	
	4	ジェネリック薬品の採用率 60%以上(数量ベース) (25年度~27年度継続目標) H25 5,000千円 H26 3,000千円 H27 1,000千円 H28 500千円							ジェネリックの採用率を上げることで全体の薬品費の削減を行う(数量ベース) H25 5,000千円 60% H26 3,000千円 65% H27 1,000千円 68% H28 500千円 82%	機能評価係数において後発医薬品係数があり、薬品費の削減のみならず、診療報酬でもインセンティブが与えられている。 目標係数は70%以上としている中、28年度は目標を達成しており、今後も継続できるよう各科の一層の協力をお願いしたい。	
	5	業務委託の内容及び金額の見直し(経費削減プロジェクトの推進) ・リネン H26以降 1,000千円削減 ・検体検査 H25以降 1,000千円削減 ・医療機器メンテナンス H24以降 600千円削減 ・感染性廃棄物 H24以降 200千円削減	経費	27年度対比 2,000千円削減	増額 26,666千円	C	C	28年度対比 2,000千円削減	・リネン管理委託費の見直し ・検体検査委託費の見直し ・産業廃棄物委託費の見直し ・医療機器メンテナンス費の見直し  H27年度削減額12,827千円	委託業務前年度対比 リネン管理委託費:±0円 検体検査委託費:1,253千円の増 産業廃棄物委託費:204千円の増 医療機器メンテナンス費:25,209千円の増  検体検査の委託料の増加は、前年対比で1,000件増えていることが要因で、産業廃棄物についても増加となった。 増額の最大要因は、MRI等が購入2年目のため、保守費用が新たに発生したこと、H27年度電子カルテシステムの入替えにより保守料が増えている。 高額な医療機器の購入及び保守点検については、総合計画に基づいて計画的に購入することから、単純に前年度と対比することができない。 また、これまで費用面を考慮して保守を行ってこなかった医療機器に対しても、機器の長寿命化や医療安全対策として保守を行うことがよいと判断されるものについては、極力保守を行う必要があり、経費削減プロジェクトとして一律的に行うことの意義が問われるのではないかと考える。	
<p>総括: ②経費削減・抑制対策 31,798千円増額</p>											

(注)1. 達成状況欄は、A:目標以上 B:一定の実績(8割以上) C:実績不足 により自己評価した